

日本声楽発声学会

The Japan Association for Research in Singing

学会通信

2015年7月15日 第31号

会員のみなさまへ

2015年度(平成27年)当学会設立51年目の活動が始まりました。5月31日(日)第101回例会は東京芸大第6ホールにて開催されました。



三人の方々の興味深い研究発表(鈴木慎一郎理事、神林 恭会員、河合孝夫理事)、総会そして午後は「特別講演」でフリーダー・ベルニウス先生をお迎え致し、合唱の指導を賜りました。美しいハーモニーの作り方等々多くを学ぶ事が出来ました。

「現役声楽家の演奏とお話」では、大野徹也先生のご立派な歌唱を堪能させていただきました。例会後、理事会を開催致しました。同理事会で小川昌文副会長兼事務局長が辞職願を提出されました。

永井和子事務局次長を新副会長兼事務局長に任命致しました事をご報告いたします。尚、編集委員長は鈴木慎一郎理事に同日、決定致しました。小川昌文先生ご苦勞様でございました。

今夏は、夏季研修会を8月17日(月)、18日(火)の二日間、日本福音ルーテル東京教会(新大久保)で開催致します。

プログラムは別紙のように理事の先生方全員で企画、演奏、指揮、講演を致します。

作曲家の木下牧子先生をお招き致し、ご自身の作品の解説と演奏法をご指導賜ります。

皆様ご友人をお誘い下さいまして、奮ってご参加くださいませ。

会長 末 芳枝

～写真は特別講演の様子～

ヴィクトリアとお江戸コラリアーズを指導するベルニウス先生



米山先生お別れの会について

竹田数章

「米山文明先生を送る会」が平成27年6月7日シェラトン都ホテル東京で行われました。日本声楽発声学会の会員の方々、呼吸と発声研究所関係の方、米山耳鼻咽喉科医院の患者さん、芸能関係やいろいろなジャンルの歌手の方々、教育関係の方、医療関係者、健康食品関係、ロータリークラブの方、出版社関係、芸能プロダクションの方々など、米山先生の幅広い交流関係を示されるように二百数十名以上の方が来られました。発起人の一人として来場して下された声楽発声学会の会員の方々にお礼を申し上げます。



れたことを明かされ、でも「先生の方が先に逝かれてしまいました」と語られていました。



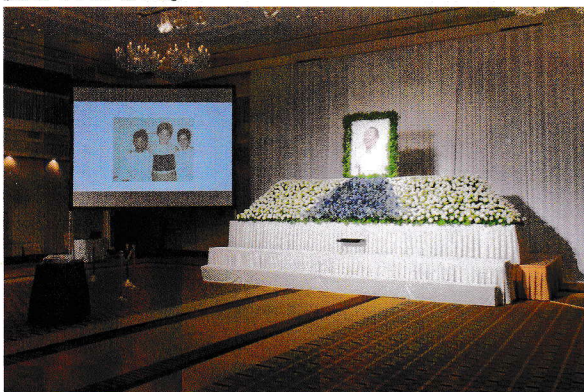
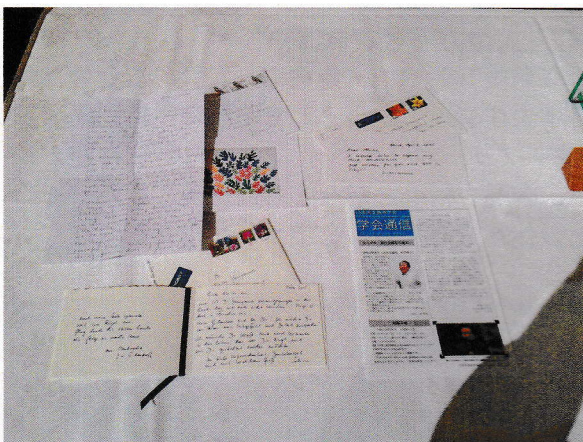
弔辞：岡村喬生

最後に米山章子夫人がお礼の挨拶をされ、呼吸と発声研究所を継続していくことを話されていました。

米山先生がお亡くなりになられたのは、大きな損失であります。先生が声楽発声において蒔かれた種を継続発展して開花させていくことが私達後進の務めと思わずにおれません。今頃は浄土の地にて妙なる音楽を楽しんでおられることと思います。合掌



先生の写真が飾られた祭壇と、隣には先生の半生を振り返る写真がスライドで次々映されました。また欧州のATT呼吸法関係のインストラクター（Atem-Tonus-Ton：呼吸と声とそれをつなぐ体の使い方）のビデオメッセージなどが流されました。



悼辞では先生の日本の音声医学や発声教育に対する貢献の大きさ、いろいろなエピソードなどが多く述べられました。また黒柳徹子さんの弔電では、米山先生から「君が死んだら君の声帯は珍しいから、教育用にもらいたい」と言わ



米山文明先生 追悼

米山先生との思い出話

宮原卓也

私は、ここ十年ほど、米山先生との御付き合いがありませんでしたので、先生との思い出話が、非常に少ないのですが、それでも、二つほど書けそうなので、述べてみます。

日本声楽発声学会の四十年史が出来て、しばらくしたころ、私は、学会の理事選に落選してしまいました。学会の最初の会合より、会員、監事、理事と、役職につきながら、永年、学会のために働いて来た私にとって、理事落選は大へんショックでした。一時、学会をやめようかとも思いましたが、かつて、事務局長までやったことのある私が、そう簡単にはやめられない状態でした。

その時、米山文明先生から御手紙をいただき、先生の御推薦により、私が名誉会員になる事が出来るということでしたので、私は喜んで先生のご好意を受けることにしました。その翌年の学会誌の「役員名簿」に私の名が載っていましたので、ほっと一安心しました。

このときの米山先生の御好意は、私の生涯の後半の中で、最高の出来事でした。ただただ感謝のみでした。

私の理事落選後、誰が新しい理事になったか、興味がありましたが、結果的には、豊田喜代美さんがなったことがわかり、私は大へん嬉しく思いました。彼女は、私が、二期会研修生の主任教授の一人だったころの生徒の一人で、トップの成績をもった、すばらしいソプラノだったからです。また彼女は、自分の意見をずばずば言うことが出来る女性だったからです。

米山先生が亡くなられ、今後の発声学会のことを考えると、八十七才になった私のような会員は、早く引退し、豊田さんのような、若くて、すばらしい理事を入れて、立派な理事会を作ることが必要だと思います。

*編集部よりお願いをして執筆していただきました。米山先生の改革断行の裏側で、きめ細かな配慮がなされていたことがわかりました。宮原先生はご謙遜なされていますが、これからもご活躍いただきたいですね。

故 米山文明先生を偲んで

会長 末 芳枝

日本声楽発声学会前理事長故米山文明先生は去る3月31日、90才にて昇天されました。



先生は長年に亘り日本学術会議の協力学術研究団体である当学会にご盡力下さり、音声生理学の立場から多大な貢献をされました。

私共は先生から身体的メカニズムやそれを駆使する為に必要とする要素を、学術的に科学的にご指導賜りました。

音カメラを使つての発声時の体震動を赤黄緑の色彩により鮮明に示された時の驚きと感動は、今も忘れる事が出来ません。

今後の発声指導は従来への耳だけによる判断から映像を通して目でも同時に判断する方法が加わり、指導法は今後大きく変わる事を感じました。

先生とドイツ人のマリア・ヘッラー女史との共同研究は、ドイツ、オーストリー、スイスで発表され成功され、話題となった事を伺って居ります。

米山先生は耳鼻咽喉科の名医でいらっしやいました。

日本人のみならず、外国から来日された有名な声楽家の演奏会前の急な声のトラブルに対し、適切な診断と治療をなされ、日本での演奏会を成功裡に導いたことをいくつか伺って居ります。

当学会の理事会で先生とお話をさせていただいた会話の中で、勇気を与えて下さった事がありました。「間違ったらやり直せばいい」「間違ったら書き直せばいい」のお言葉でした。

先生が研究され盡した事柄を書物としてまとめつつ、もっと確実な方法を求めて研究していらっしやるお姿に、常に勇気と研究心の大切さを学ばせていただきました。

声楽家の声楽発声法に於いて、日本人にとって何が必要であるかを常にお考えになり、実践との結びつきに心して居られた先生のお姿に頭が下りました。

ご立派な米山先生のご退任を受け今私は重責に耐えて居ります。

時代の変遷の狭間に立たされて苦慮致しております。

しかし五十年前に結成された声楽発声指導法研究会の先生方の、声楽芸術発声研究に対する純粋で熱い研究心を大切に致し、学会となった今日もその精神を大切に理事の方々や諸先輩のお力をいただき乍ら、研究団体として歩みを続けて発展させて行きたいと願っております。

米山先生天国からお見守りくださいますよう心からお願ひ申し上げます。

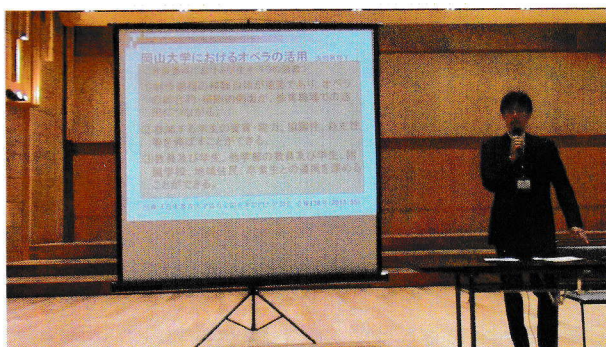
数えきれないご指導とご盡力を賜りました事に對しまして心から感謝と御礼を申し上げます。

誠に有難うございました。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

2015年6月

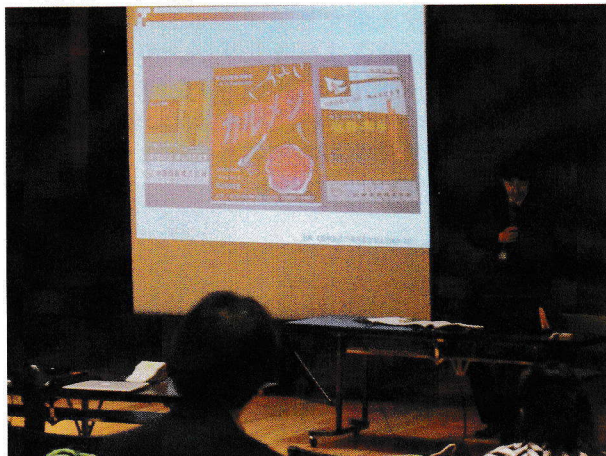
5月例会フォトレポート



発表者：鈴木慎一郎 鳥取大学准教授・本学会理事



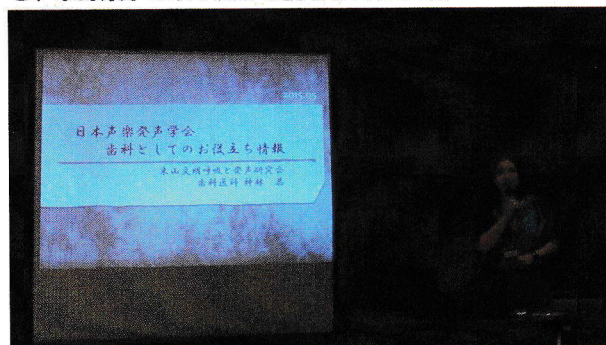
発表者：河合孝夫 河合孝夫音楽研究所所長 本学会理事



声楽教育の萌芽について、貴重な資料を数々提示しながら、水野康孝の取り組みを説明されました。



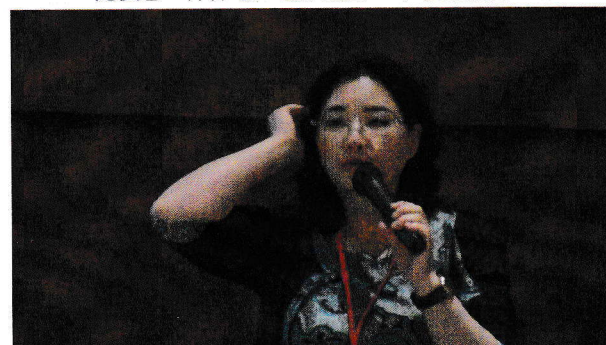
声楽家の「発声感覚」を共鳴腔の可視化という科学的証明を試みられました。



発表者：神林 恭 歯科医師・本学会会員



”ヴォーカルアンサンブルヴィクトリア”と”お江戸コリアアーズ”のコラボ混声編成。レギュラー指揮者の演奏。



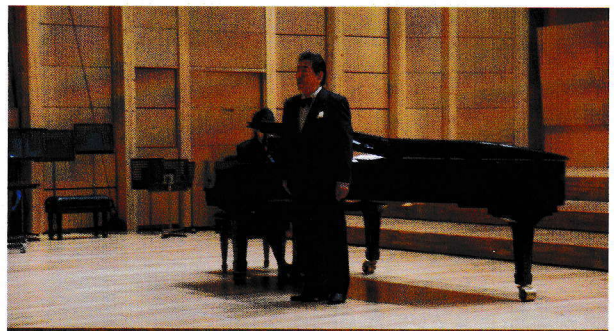
歯科医の視点から、声楽家に有益な情報をもたらしていたきました。近日判明した最新情報の紹介もありました。



ベルニウス先生の指導。自らのアプローチの考え方を示し、レッスンを進めていくことで、演奏者、参観者に訴えかけておられました。



ベルニウス夫人も手薄なパートに飛び入り参加。



テノール独唱：大野徹也 Verdi,Tosti,日本歌曲等を熱唱



末会長とのトークセッション

通訳：安保洋子

秀逸な通訳も相まって、レッスンも深まりました。

第51回総会報告

日時：平成27年5月31日(日) 11:45~12:10

場所：東京藝術大学 第6ホール

総会出席者総数64名 委任状提出者74名(会則会員数340名(2015年3月31日現在)の3分の1以上の出席者(委任状を含む)を持って総会成立)

議長：末 芳枝 司会：小川 昌文

会長挨拶：末 芳枝

議題

1) -1、第5号の学会誌の遅延についてのお詫びと報告 事務局長：小川昌文

① 遅延についての理由の説明。

② 今後の対応について、No.5号とNo.6号を合冊とする。

1) -2、平成26年度 活動経過報告

平成26年度は、本学会の50周年にあたり、第99回例会と祝賀会、歌の集い「宇宙について」、沖縄支部発足と第100回例会を併せ沖縄にて実施。

2) 平成26年度会計報告及び監査報告 事務局長：小川昌文
監事：清水喜承

*以上、1)・2)は、拍手を持って承認されました。

3) 平成27年度 活動計画 事務局長 小川昌文
27年5月例会・8月夏季研修・11月例会等の活動

4) 平成27年度 予算案審議 事務局長 小川昌文

*以上、3)・4)は、拍手を持って承認されました。

5) -1、新入会員12名 5) -2、退会会員10名

*2015.03.31現在

6) 閉会の挨拶 副会長 川上勝功



Combinir di Corista 指揮：松村努 Auf dem Seeを熱演



ベルカントを巡る

No6 「カストラートの登場」

河合孝夫

カストラートとは、16世紀に登場し、17世紀から18世紀にかけてヨーロッパ中で大活躍して、ルネサンス時代まで主流だった教会合唱音楽からその後のオペラを中心とする独唱音楽への架け橋を担い、現代の歌唱技術の基礎を作った歌手達の事である。今回は、その誕生と歌手としての特殊性について申し上げる。



さて、元来教会では女性が歌う事は許されず、合唱は男声で歌うことになっており、ソプラノやアルトの声部は男声のファルセットで歌っていた。この歌唱法がCOUNTER-TENOR(カウンターテナー：テノールの声部に対応するアルトの声部)の名で現代に伝わって、男声ファルセット歌手の呼び名になっている。しかし、合唱が発達し、その音域が成人男性のファルセットで歌える音域を越えるようになると、高声部を少年歌手が歌うようになった。いわゆるボーイ・ソプラノである。しかし、少年達には変声があり、そのため歌手として教育しても数年の内に歌えなくなり、また新しい少年歌手を補充、歌手教育をしなければならなかった。

ところが、その少年歌手の中になんらかの事故や病気で睾丸の機能を失い、変声せずに高音部を歌い続ける者がいたのである。合唱を歌わせる教会側からすると、それは好都合な事であった。年端の行かぬ子を教育するのは、なかなか手のかかる事であるが、いったん教育した子供が変声せず、そのまま高声部を歌ってくれるは、それだけでも大助かりであり、また、新しく入ってきた少年歌手の手本ともなったであろう。このようにして、カストラートは教会合唱の中で便利な存在として誕生した。

カストラートの声楽技術は、その肉体的特殊性から、現代では考えられないほどのものになっていった。彼らの名は、その並外れた歌唱技術で17世紀から18世紀にかけてのバロックオペラの時代に、超人的スター歌手としてヨーロッパ中を席卷し、伝説的な歌手達として現代に伝えられている。

オペラのスターとしてカストラートの需要が多くなり、また、経済的に裕福な者が出てき始めると、手術によってカストラートにするという事が始まった。カストラートになるための手術は、一

般的に変声前の8才から10才の少年に行われた。手術は、麻酔とは言えないほど簡単な麻酔で子供を眠らせ、鼠蹊部を切開し、そこから精索と睾丸を引き出し切除した後、精管を結ぶ。こうして男性ホルモンを抑制された少年は変声せず、子供の声帯のまま成長した歌手となる。ただし、その子がカストラートとして成功するかどうかは、保証の限りではなかった。実際、術後の感染症などで死んだり、声楽能力が低かったりして不遇な一生を送った人が数多くいたと言われている。そんな中で運良く成功したカストラートの体型と声楽機能はどうだったのだろうか。

カストラートは、背が高く、胸が大きくて子供の声で歌ったとある。そして、広い音域を素早く歌うコロラトゥーラの技術に長け、異常な長さのフレーズを歌い、信じられないほどダイナミックなメッサ・ディ・ヴォーチェを歌う事ができた。なぜこのような事が出来たのか、我々の発声器官の機能と比較して考えてみよう。

カストラートの声帯は子供の大きさで、喉頭を取り巻く環境は成人男性なので、我々よりも声帯をダイナミックに扱う能力があったのではないかと思える。また、一般的に共鳴腔は首の長さや喉頭の位置の低さに比例するので、我々よりよく共鳴する共鳴腔を持っていたと考えられる。そして、声帯振動を持続する呼吸は、子供の声帯に大人の大きさの肺を持っていたことから、声帯の大きさに対して、我々よりも常識はずれに有効な呼吸量を持っていたと言える。それらの結果、超人的な声楽技術で歌うカストラートが生まれたのである。

ところで、カストラート(CASTORATO=伊語：去勢する=去勢歌手)という呼び名は、その意味からしてある種の侮蔑を含み、彼らにとってはあまり嬉しくない言葉であった。そこで、イタリアの外ではカストラートと呼ばれたが、母国イタリアでは尊敬の意味を込め「MUSICO:ムーヰコ(音楽家)」とか「VIRTUOSO:ヴィルトゥオーゾ(名人)」などという言葉で呼んだ。むしろ、この呼び名にこそ、彼らの超人的声楽家としての真骨頂があり、ベルカント唱法のイメージが具体的にになってくる。

ただし、カストラートは、これらの特殊性において現代のカウンターテノールやソプラニスタと言われる歌手達とは、根本的に違う声楽的肉体と声を持っていた事を認識して、我々は彼らの技術を理解しなければならない。では、彼らの歌唱技術とはどんなものだったのだろう。その歌唱技術と教育法については、次回申し上げる。

今後の予定

平成27年 夏季研修会

日時：第1日 8月17日(月) 13:00~17:00
第2日 8月18日(火) 10:00~16:00

会場：日本福音ルーテル東京教会

内容：第1日

A 講座 13:00~15:00

①シンポジウム”呼吸・横隔膜と音声”竹田数章・西浦美佐子

②ディスカッション”声楽家は発声でどのように呼吸をコントロールしているか”川上勝功・永井和子

「歌の集い」日本の歌曲 1900年代~現代
高木照子Sop. 藤本保江Sop. 山本富美Sop. 豊田喜代美Sop. 女声合唱

第2日

B 「ドイツ歌曲を歌う楽しみ」(公開レッスン)

講師 末芳枝

C 「木下牧子声楽作品公開レッスン」

講師 木下牧子、豊田喜代美(ソロ、合唱アンサンブル)

*詳細は別紙案内をご覧ください。

第102回例会

日時：11月29日(日) 10:00~16:30

会場：東京藝術大学

*詳細はホームページ、学会通信にてお知らせします。

会員の動向

*ホームページにはカラー写真等詳細情報があります。

~~ 実施報告 ~~

泉 恵得 六大歌曲集連続演奏会

5 ベートーヴェン：「遙かなる恋人に寄す」

シューマン：「詩人の恋」----- 他

日時：2015年5月24日(日) 午後3:30 開演

ホール：島ピアノセンター ピアノ：安富祖貴子

6 信時潔「沙羅」

日時：2015年7月5日(日) 午後2:00 開演

ホール：浦添市でだこ大ホール ピアノ：真喜志麻紀

Musica poetica 2015初夏

岡本かの子『狂童女の戀』<人形・歌・朗読の夕べ>

[ユトロ]とともに

朗読：坂本長利 人形[ユトロ]操演：黒谷都

メゾソプラノ：淡野弓子

ピアノ/チェンバロ/作曲：武久源造

2015年5月1日(金) 19時開演 三鷹市芸術文化センター「星のホール」

~~ 出版案内 ~~

うまく歌える『からだ』つかいかた

川井弘子著(本学会会員) 発行：誠信書房 B5版

140頁 本体価格2,200円+税

ISBN978-414-90005-5 C2073

~~ コンサート案内 ~~

音楽グループ Musica poetica (代表：淡野弓子) 2015夏~秋

e-mail: yumiko@musicapoetica.jp チケット：菊田音

楽事務所T&F: 042-384-0543

2015/7/23(木) 午後7時

三鷹市芸術文化センター「風のホール」

<デュオ・うめもりサイトル>SUMMERTIME~ロマン派とジャズの交差点~ ソプラノ:淡野桃子 ピアノ:梅谷初

ベルリオーズ/ブーランク/ドビュッシイ/ガーシュイン

/日本のうた 他

全席自由 4000円 学生 2500円

2015/9/22(火・休) 午後2時

新宿文化センター 小ホール

<19世紀合唱音楽の集い その2>

合唱：メンデルスゾーン・コア 指揮：淡野太郎

ブラームス「救い主よ、天を切り開いて」他メンデルスゾーン、ブルックナーの作品

全席自由 3000円 学生 2000円

10/16(金) 19:00

武蔵野市民文化会館[ARTE]小ホール

<ブラームスの夕べ> 淡野弓子 メゾソプラノ

杉山光太郎 ヴィオラ 小林道夫 ピアノ

I. わが恋は緑/永遠の愛について/五月の夜/わが微睡み

はいよよ浅く II. 湖上にて/雨の歌/余韻 III. アルト、

ヴィオラ、ピアノのための2つの歌：秘めたる憧れ/宗教

的な子守歌 IV. ヴィオラ・ソナタOp.120-2 Es-Dur

V. 四つの厳粛な歌 Op.121

入場料[全席自由]4000円/2500円(学)チケット発売開始:7月23日(木)

東京文化会館チケットサービス03-5685-0650

武蔵野市民文化会館TEL:0422-54-8822(窓口のみの販売)

主催:ムシカ・ポエティカ03-3970-0585(T)03-3998-5238(F)

マネジメント:アレガロミュージック03-5216-7131

2015/11/12(木) 午後7時

三鷹市芸術文化センター「風のホール」

<レクイエムの集い>

合唱：ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

指揮：淡野太郎 オルガン：椎名雄一郎

H.シュッツ《音楽による葬送》 柴田南雄《無限曠野》

入場料[全席自由]4000円/2500円(学)チケット発売開始9月22日(火)

メグめぐコール 演奏会 2015

~大中恩作曲家生活70年記念~

I 混声合唱組曲「五色桜」 櫻木みずき 作詞

II 寺山修司を歌う ~生誕80年の年に

III 無伴奏混声合唱「煉五色の街」

日々のわれらへのレクイエム 阪田寛夫 作詞

IV 仲間たちの詩による小品集

作曲/指揮:大中恩 合唱:メグめぐコール ピアノ:やまだやすひろ

2015年10月31日(土) 14:00開演 13:30会場

紀尾井ホール 全席自由 3000円

チケットお求め・お問い合わせ

大中03-3408-6422

道岡080-3422-0981

song_song_michi-masa@t.vodafone.ne.jp

*相川修一幹事、児玉時子会員、西村暁子会員出演

Q & A

会員からの質問にお答えします。

Q 研究発表や”歌の集い”などの発表者はどのように決定しているのか。発表するにはどうしたらよいのか。

A 研究発表：研究発表規程をご覧ください。学会誌およびホームページでご覧いただけます。

”歌の集い”：学会通信およびホームページにて募集告知をしています。

~~ 募集 ~~

第102回例会 研究発表募集

研究発表規程は、「研究発表規程第2条 口頭発表

(エ)の項、6ヶ月前までに(条件を揃えて)送付」とな

っていますが、現時点で発表枠に余裕があるので、学会

通信およびホームページを通じて公募する事になりました

。提出は、7月末までに、研究発表規程に沿って事務局

までご提出下さい。なお、研究発表規程第2条 口頭

発表(オ)の項もご確認下さい。

事務局から

会費納入のお願い

今年度年会費未納の方は納入をお願いします。

また、過年度の年会費未納の方は早急にお振込下さいませよう、お願いいたします。通信欄には、該当年度をご記入下さい。過年度分の納入状況を確認されたい場合にはその旨メール、もしくはFAXでご連絡下さい。

お振込先

ゆうちょ銀行
口座番号 00170-0-119920
加入者名 日本声楽発声学会

連絡先について

郵送物の不着が発生しています。転居等での連絡先の変更はお早めに事務局まで連絡ください。

声楽発声研究について

大変おまたせしております。ただいま第5号と第6号を合冊にて製作中です。今夏完成見込みです。いましばらくお待ちください。

事務局だより

事務局長 永井和子

学会通信第31号をお届けいたします。2015年5月31日(日)101回目の恒例の5月例会は、沢山の会員の皆さまのご参加を得て、意義ある研究発表や特別講座、現役声楽家のご演奏等、多彩なプログラムで無事終了いたしました。また年に1回の総会も忌憚のないご意見を頂戴し、滞りなく執り行われました。皆さまのご協力を心より感謝申し上げます。8月に開催いたします「夏季研修会」のご案内を、ここに同封いたします。奮ってご参加ください。



とりわけ長年に亘って本学会の理事長をお務め下さりご指導くださいました故米山文明先生のお別れの会が、6月7日にシェラトン都ホテル東京におきまして執り行われ、本学会員の多くが参列し、哀しいお別れをいたしましたことをここに謹んでご報告申し上げます。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

尚、諸般の事情により、小川昌文理事が副会長兼事務局長及び編集委員長を辞任されました。つきまして、会長の任命によりこの期の残任期間(平成27年6月6日より平成28年5月総会日まで、但し、選挙による後任への引き継ぎまでの職務)を、会則第11条・12条の規定により副会長兼事務局長として永井和子が引き継ぎます。そして「声楽

発声研究」の編集業務を行なう編集委員長に鈴木慎一朗理事を5月31日(理事会承認)をもって受け継ぎ担当いたしますことをご報告いたします。

尚、河合孝夫理事の投稿をいただきました。会員の皆さまのご投稿をお待ちしております。

編集後記

幹事 相川修一

大きな行事が続いた昨年度の熱もさめやらぬまに、今年度も順調にスタートしました。藝大の動線が変更になり、特別講演では多数の出演者が動くという難しい課題がある中、人員不足の運営に不安もありましたが、みなさんのご協力により無事終わることができました。次回にむけて、マイクの問題や、プロジェクターの光量について取り組んでいます。例会運営に関するみなさまの意見をお寄せ下さい。



今号は、会員からの要望にこたえる形で、新たな試みとして総会の報告を掲載しました。また、研究発表や各種演奏へのエントリーについての問い合わせを受け、Q&A形式で掲載しました。会員のみなさんの積極的な参加により、学会全体が活気づき、実り多き会になることを期待しています。

会員の動向の欄の投稿の充実が課題です。会員相互の交流のきっかけづくりのためにもぜひご投稿ください。ちなみに、メグめぐコールの演奏会の無伴奏混声合唱「煉瓦色の街」は20分近く音取りなしで歌います。ご察しの通り長時間のアカペラですので音程下がりへの対処に苦慮しています。発声を整えることで解決できる部分が多いのではないかと思います。団にどう提案しようか思慮中です。どなたかアドバイスください。

2015年7月15日

日本声楽発声学会 学会通信 第31号

発行人 末芳枝

編集人 相川修一

発行 日本声楽発声学会事務局

〒241-0002 神奈川県横浜市

旭区上白根1-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

e-mail : jars@jars-voice.com

HP: <http://www.jars-voice.com>

日本声楽発声学会 学会通信 第31号